

---

# モンスターハンター ～馬鹿二人の狩猟物語～

神羅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

モンスターハンター ～馬鹿二人の狩猟物語～

### 【Nコード】

N1705F

### 【作者名】

神羅

### 【あらすじ】

色々あって馬鹿な弟子を拾った青年、ギル。色々あって馬鹿な師匠がついちまった少年、フィル。二人の少々馬鹿な物語が今始まる。…モンスターハンターの世界観等は出来るだけ壊さないように注意します。でも壊れてしまうでしょうね。それでも良いという方、この小説を宜しく願います。

## プロローグ

その日、俺は何時もの様にメンドクサー依頼を回されて、何だかんだ言いつつも遠出の準備をしてドンドルマの宿から出たわけだ。

ま、俺個人的には強い敵と戦えるのは嬉しい事なんだがな。

それでも何日もかけて今回の目的地である……？ん？何つつたかなあ……。

何？自分の行く狩場くらい名前を覚えとけって？余計なお世話じゃ

ー！

まあ、ドンドルマから遠く離れた所の森と丘に超大物の雄火龍、リオレウスが住み着いたらしくてな、それで俺が回されたって訳だ。

そこで面白い連中と出会ったんだよなあ……。

## プロローグ（後書き）

余力が出てきたんでもう一度モンハンの小説を書こうと思います。  
不定期更新ですがね…

## 第一話 出会い

……はあ……早く着かないかねえ。

ドンドルマから出発してもう二日も経つちまつてる。

早くしねえと大物がどっか行つちまつぜ。

……おっと、こりゃ失礼。

俺の名前はギル。苗字もあるが、まあ殆ど呼ばれる事が無いから教えなくてもいいだろう。

18歳、男。東方出身のハンターだ。

今はドンドルマに腰を据え、そこから依頼を受けて生計を立ててる。一応通り名も持つてるんだぜ？

『孤高の狩猟狂』

っーな。

……そこ、笑わない。

いやいや、俺だって恥ずかしいぜ？

偶然酒場で飲んでる時に見知らぬハンター達に

「アレが狩猟狂か……。でも本当に何時も一人なんだな（笑）」

とか言われてみ？

恥ずかしいから。

もう開き直つたがな。

すまない、話が逸れたな。

今は依頼を受けて遠く離れた森と丘に向かっている途中なんだ。

何でも、今までに類を見ないほどデカイ雄火龍リオレウスだそうだ。……そそるだろ？

ま、今日の夕方に着くみたいだから、今は失敬してもう寝るぜ。

カーン カーン カーン

うし、<sup>ペースキャン</sup>拠点の準備は出来たな。

…分かつちやいたけどやっぱり支給品は無しか。

武器…背負った。所持品…OK。問題なし。

じゃ、行くとしますか。

…

…

…

…いねえ。

どうしよう。今回遠い所まで来たから早く狩って帰りたいのに…。

踊ったりしたら出てきてくんねえかな。

うん、そうだ、踊ってみよう。

確かこんな踊りだったよな。

こつ…腕を胸辺りで水平にしてこつ…左右にクイッククイックしてしながら右に二歩、左に二歩…

ザザザッ

！？

なんか来たぞ！？

「キー」

チャチャブーだった。

「…かまだ踊ってるのに目合っちゃった。  
どうしょ…。」

「クキキキキッ」

んな！？

こっち指差して笑いやがった！

そうかさうか…：そんなに俺の踊りは無様か…。

「テメー死にたいようだなコラア！」

「キッ」

俺の殺気を感じたんだろうか…：斬る前にどっか行っちゃまった…。  
…：うん、真面目に探そう…。

オン！オン！

アアアアアアアア！

爆音…：見つけた！

近いな…。向こうか！

いた。

今回の、敵、が。

しかし様子がおかしい。

翼膜や体のいたる所から血を流している。

おいおい、仮にも王者だぜ？  
しかも、相当の大物だ。

それが何故、あんな状態になっている？

少し…様子を見るか…。

双眼鏡、双眼鏡…

アレは…獣人二匹と…子供！？

特にあのガキ…なんて動きだ。

右に左に。下に上に。拳句の果てには王者の背中に飛び乗ってやがる。

使ってる武器は…素手？いや、鉄製の鋼爪か！

む…マズイ、あのままだと火球食らうちまうぞあのガキ！？

な！？チャチャブーが割って入っただと！？

つてチャチャブー、デカ！？俺よりでかいんじゃ無かるうか…。

ん！？あのガキ！容赦なく王者の右眼の中に手突っ込みやがった！

ガアアアアアアアアアア！！！！

っひー、メツチャ叫んでる。

…王が逃げ出したか。

ま、あんだだけやられりや当然だな。

破れた翼膜で必死に高度を上げてる。

お、あのガキ、近くに刺さってた鉄の棒みたいなの抜いたぞ？

…ブン投げたー！？

頭に刺さったー！

落ってきたー！？

ああ…死んだな。

…南無…。

「…つて違あー…う！」

「コッツ!?」「」

「おいテメー等!そいつは俺の獲物だ!何勝手にやってんだコラ!」

何も言わずに武器を構えるデカイチャチャブー(?)二人(?)。

上等だ。やってやるよ。

俺も無言で今回の武器、龍刀【朧火】を構える。

「。」「」

…?

ガキが何か言いながら俺とチャチャブー(?)との間に入ってきた。  
ん…チャチャブー(?)が武器を下ろした。

「武器 下ろす。 着いて 来い」

「……分かった」

暫く歩くと、森の深奥に小さな集落があった。

集落の入り口には後ろにいるチャチャブー(?)よりも更にデカイ  
チャチャブー(?)が立っていた。

「。」「」  
「。」「」

ガキが立っていた奴に何か喋って、何処かに去った。そのまま後ろ  
の奴らもいなくなった。

残った奴が俺の方に向いた。

「この村に客人か…久しいな」

「…アンタ、喋れるのか？」

「ああ…私はな。とりあえず、私の家に来てくれないか？話はそこでしよう」

「分かった」

少し歩き、集落の真ん中辺りにある少し大きめの家に案内された。  
お、酒も出てきたぞ。

「さて…まずは君の名を教えて貰いたい」

「…ギルだ。で、あんた等は何で人様の獲物を狩ってたんだ？」

「私達がこの森を守る者だからだ。仮面を被った獣人たちがいただろう？私達は元はチャチャブーだったんだ。数百年前に普通のチャチャブーとは違った進化を遂げてね。それ以来、私たちはこの森を守り続けている」

「成る程な。それであんな大物が居ついちまったから狩ったと」

「そういうことなんだ。すまなかったな、ギル君」

「それはもういい。それより、あのガキは何だ？」

「ああ、ファイルのことかね。十数年前にも大物のリオレウスが来たことがあってね、私が直接狩ってきたんだ。その帰りに赤ん坊のまま捨てられているのを見つけたんだ。それ以来、ずっと皆と一緒に暮らしている」

「皆って…あのデカイ獣人達とか？」

「ああ、そのせいかあんなに狩りが強くなってしまったね。数年前からリオレウス狩りによく出ているよ」

「ふうん…」

「まあ、話は変わるがあの子を人間の世界に連れて行ってやってくれないかな？」

「はっはっは。お断りだ」

「フッフッフ。まあそう言わずに」

「お断りだ」



「全力を出させてもらおうよ！」

周りから松明たいまつを持った一人の獣人が近づいてきた。  
その手には小樽爆弾が握られている。

「アレが空中で爆発したら開始だよ」

導火線に火が点く。

空中に放り投げられた。

俺は全力を出す為に力を貯めた。

いざ、

ポオン！

勝負！

「ア~~~~~」

今は帰りの馬車の中。

そして俺の近くにはあのガキ。  
のんきに寝てやがる。

『はっはっは、私の勝ちだね。じゃ、約束どおりフィルの事は頼んだよ、ギル君』

あの後、約十分に及ぶ激戦の末にオッサンに負けたんだよな。  
マジ強かった…。ドンドルマにもあの強さの奴はそうはいないぜ。

『そうそう、一応保護者なんだから名前を覚えておくよ。あの子は『リイフィルア』という名でね、古い言葉で『型破り』や『何事も縛られない』や『常識破り』という意味だ』

型破りだわなあ…。リオレウスの眼ん中に手ぶち込むなんてありえねえよ普通。

『はっはっはっは、じゃ、フィルの事は頼んだよ。最低でも一年か二年に一度顔を見せに来てくれ。それじゃ、また会おう、ギル君。……そうそう、フィルはレウスとしか戦ったこと無いから基礎から教えてあげてね』

「ア~~~~~」

負けちまったもんは仕方ない。

素直に弟子にして基礎から教えてやるか。

さて、何か色々あつて疲れたし、俺も寝るとするかな…。

## 第一話 出会い（後書き）

今回は一応主役のギル君視点で頑張ってもらいました。

……次話からは真面目に書きます。はい。

それでは、今後もこの小説を宜しく願います。

誤字等があったら連絡していただけるとありがたいです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1705f/>

---

モンスターハンター ～馬鹿二人の狩猟物語～

2010年10月10日04時14分発行